

## コバノヒノキシダの北限

登坂 裕一

およそ3年前の2002年12月21日、弥彦山麓のスギ林、雪で塞がれた林道を歩いたとき、積雪から顔を出していた石垣に、トラノオシダと並んで、コバノヒノキシダらしきものが数株付いているのを見た。ごくごく小さな個体でソーラスもなく、同定に確信が持てなかった。個体数が極端に少なかったこともあり、結局採集せずそのままにしてきた。その後、なかなかそこへ行く機会もなく、気がかりだったが、2005年11月26日、ようやく再訪することができた。

驚いた！たくさんある！繁殖していて3年前と様相が一変していた。林道脇に組まれている石垣の一部、高さ1m×幅4mの範囲に比較的密に生え、そこから道沿いに10mほど先まで、ポツリポツリと広がっていた。ごく小さい個体が多く、石と石の隙間に付き、オクマワラビ、トラノオシダ、ヤマヤブソテツが混生していた。著しく密集した所があるので、正確な個体数は把握できなかったが、全部で約50株はあると思われる。ソーラスが付いている大小3株を採集し、さく葉標本にしたら、そのうちの1株から胞子がわずかに散布された。

コバノヒノキシダは、新潟県内では筆者が1999年十日町市で最初に気づき（池上・石沢 2000）、その後上越地方でも見つかっているという。『日本のシダ植物図鑑第2巻』によれば、国内北限は福島県いわき市入定となるが、弥彦山麓はそれよりさらに北の分布になる。県内3カ所目の産地であると同時に、国内の分布北限地にあたり、学術上大変貴重である。ただ、この繁殖ぶりを見ると、県内でかなり広がっているのかも知れない。各地の石垣に注目していただきたい。

## 分布地データ

西蒲原郡弥彦村上泉 75m:TY-30451(2005. 11. 26)

スギ林下の林道に面した石垣（北東向）

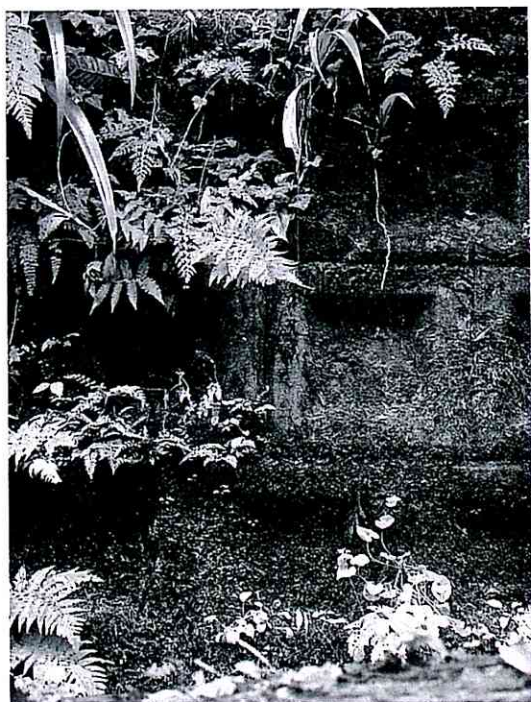
[五万分の一地形図 弥彦384375-22, 環境庁3次メッシュ 5638-4656]

国内北限。県内極希産。弥彦連山新記録。

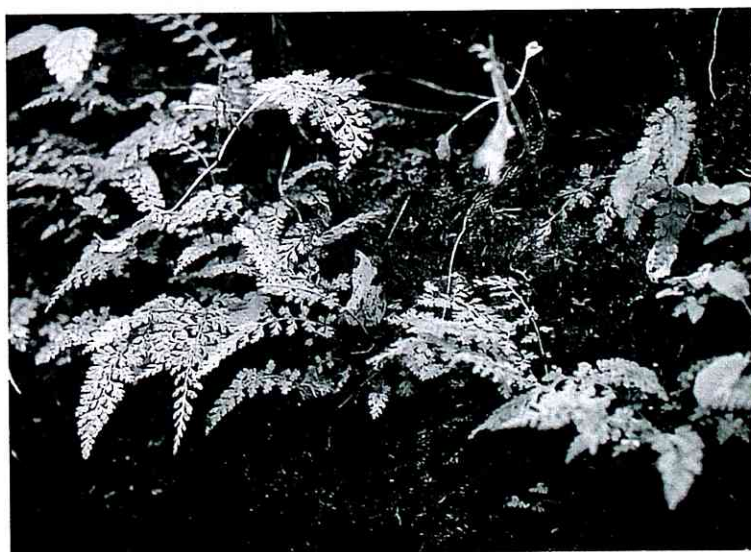
## 文献

池上義信・石沢進（2000）新潟県植物分布資料（19）新潟県植物分布図集 第20集：98

倉田悟・中池敏之（1981）日本のシダ植物図鑑第2巻：16



コバノヒノキシダの生育地（中央）



コバノヒノキシダ